

琵琶湖疏水記念館特別展

Special exhibition of The Lake Biwa Canal Museum

「フィールドミュージアム琵琶湖疏水」

The Lake Biwa Canal as a Field Museum

いこいの散策路 疏水分線

Popular promenade — Branch Canal

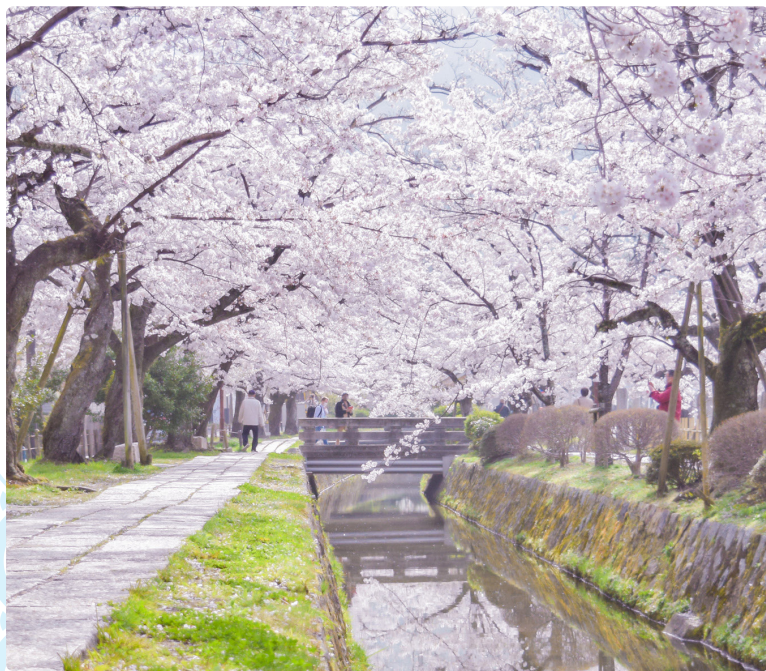
～水路閣・哲学の道 穏やかな水の流れとともに～

Suirokaku Aqueduct & Philosophers' Path with the gentle flow of the canal.

疏水分線は、琵琶湖疏水の本線から分岐する水路で、明治23年3月に完成しました。

当時の全長は約8.4キロメートルあり、東山の山麓に沿って、南禅寺、若王子、「哲学の道」を経て、
高野川、賀茂川を横切り、堀川付近のこかわ小川へと流れていました。

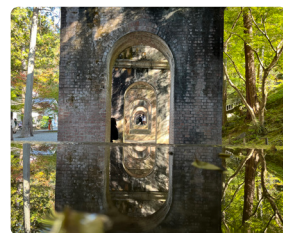
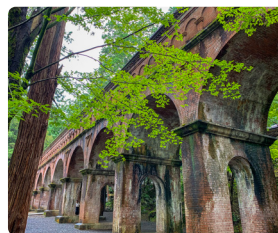
本特別展では、「疏水分線」の建設と多様な水利用の歴史を、貴重な資料とともにご紹介します。



哲学の道



水路閣



令和6年

【期 間】6月25日（火）～12月22日（日）

入館無料

9時～17時（入館は16時30分まで）

※休館日：月曜日（月曜日が祝日・休日の場合は翌平日）

【会 場】琵琶湖疏水記念館

京都市左京区南禅寺草川町17

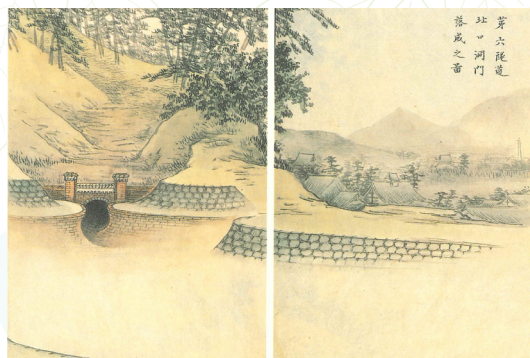
展示
構成

第1章 疏水分線の建設

第2章 疏水分線の水の利用



疏水分線沿いの実測図
【明治23(1890)年頃】



第6トンネル北口洞門の落成
【明治23(1890)年】



疏水分線の終点・小川頭
【昭和15(1940)年頃】



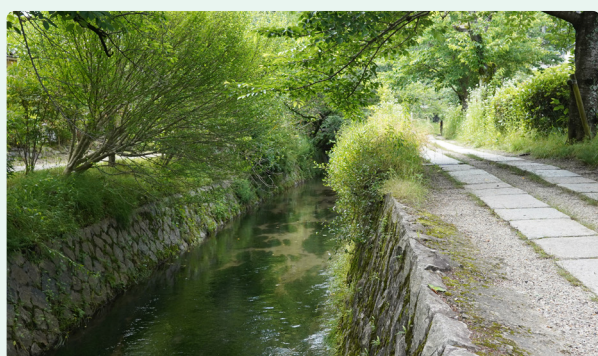
高原橋
【昭和初期】



御苑内外水路測量之図
【明治23(1890)年】



橋本関雪の詩碑
【昭和18(1943)年建立】



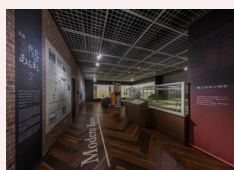
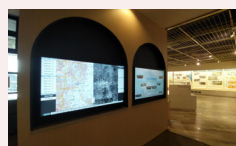
哲学の道

フィールドミュージアムとしての疏水分線

疏水分線は、沿線各地への水力利用、かんがい用水、防火用水の供給等を目的に設置されました。若王子神社から浄土寺橋に至る疏水分線沿いの遊歩道は、京都大学の哲学者・西田幾多郎が思索にふけたとされることにちなみ、「哲学の道」と呼ばれています。

明治時代にタイムスリップ!?

疏水（そすい）とは、人工的につくられた水路のことで、琵琶湖疏水は琵琶湖の水を京都に運んでいます。琵琶湖疏水記念館では、京都近代化の舞台裏を分かりやすくご紹介。蹴上インクライン上を舟を載せた台車が行き来していた様子が分かるミニチュア模型のほか、蹴上・岡崎エリアのジオラマやアーカイブ映像の視聴コーナーなどもあります。



- 琵琶湖疏水記念館の入館料は無料です
- 休館日：毎週月曜日（月曜日が祝日・休日の場合は翌平日）
- ◎地下鉄東西線「蹴上駅」下車徒歩7分
- ◎市バス5系統「岡崎法勝寺町」下車徒歩4分